

システム情報工学研究科修士論文概要

年 度	平成 27 年度	学 位 名	修士(ビジネス)
専 攻	経営・政策科学	専 攻	著 者 氏 名
指導教員氏名		生 稲 史 彦	
論文題目			
大学生ユーザーにおける IM アプリの使用意向に影響を及ぼす要因について —Line と Wechat を対象として—			
論文概要			
<p>近年、世界中のスマート・フォンの急速な普及に伴い、インスタント・メッセージ（Instant Messenger、IM）アプリは、大学生をはじめ幅広い年代に利用されている。その代表例として、中国の WeChat と日本の Line が挙げられる。</p> <p>本研究は、WeChat を使用している中国人大学生と、Line を使用している日本人大学生に Web アンケート調査を行った。まず、既存研究の尺度に基づき、「使いやすさ」、「有用性」や「情報プライバシー意識」について、質問紙を作成した。次に、IM アプリの使用意向、使用態度に影響する諸要因を見つけ出すために、先行研究に基づいて仮説を構築した。IM ユーザーの個人的要因が、実際の利用時間や登録回数にどのように影響しているかについても併せて検証した。</p> <p>分析手法として主に因子分析と重回帰分析を行い、WeChat と Line の大学生ユーザーのそれぞれの特徴に関するいくつかの仮説を検証した。本研究では主に 3 つの結果が得られた。</p> <p>第 1 に、Wechat のユーザーが感じた「有用性」は IM アプリの使用意向に正の影響を及ぼすことを実証した。第 2 に、Wechat と Line のユーザーの両方が、IM の使用意向が実際の利用行動に影響を及ぼすことを実証した。第 3 に、「情報プライバシー意識」は、Line のユーザーでは、使用意向と使用態度ともに正の影響を及ぼすことが実証できたものの、WeChat のユーザーでは実証できなかった。</p> <p>今後の研究課題としては、独自の尺度を導入したモデルを構築し、サンプル数を増やして研究を行うことが考えられる。最後に、本研究の結果を IM アプリの運営会社に提言していきたい。</p>			
審査日	平成 28 年 1 月 29 日		
審査員	(大学名 職名)	(学位)	(氏名)
主査	筑波大学 准教授	Ph.D.in Economics	TURNBULL Stephen John
副査	筑波大学 准教授	博士(経済学)	生 稲 史 彦
副査	筑波大学 准教授	Ph.D.in Management Science	倉 田 久